

科目名	専門基礎分野				ディプロマ・ポリシー(DP)	DP1	DP4	
	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進				担当教員	専任(基幹)教員		
	症候論							
履修学年	1年	履修学期	後期	単位数	1	時間数	26	
授業目標	1. 主要な症候理解のために、看護形態機能学・病態生理学の知識を活用できる 2. 健康障害によって生じる症候の原因や症状、発症のメカニズムを理解する 3. 症候の発症予防や症状の緩和を目指す看護につながることを自ら考え説明できる 4. 症候論の学習の重要性に気づき、症状・徴候の対応や対処の原則が理解できる							
回	学習内容					方法	担当教員	
1	1) 病状を説明する基本的な医学用語 (1) 病気の医学的診断の四つのレベル ①症候論的診断(臨床的診断) ②病理解剖学的診断/原因診断/機能診断 ・症候学とは 身体所見/急性/慢性/ 治癒と寛解/予後/疾患(Disease) 2) 身体の不調はどう捉えるか (1) 身体の不調の捉え方 (2) 疾患別の分類 (3) 病因別の分類 (4) 症状、徴候の分類 医学的徴候と症状(system) 症候群(シンドローム)					講義	専任(基幹)教員	
2	3) 疾病・病態と症状・徴候の関係 (1) 人体の構造と機能 (2) 病因 (3) 病理学的変化 (4) 構造と変化 (5) 機能の障害 (6) 症候					講義 演習		
3 4 5 6	4) 「炎症」の現れを形態機能学を用いて説明できる (1) 炎症の機序 (2) 炎症を担う細胞 (3) 炎症を担う化学伝達物質 (4) 疼痛と発熱の機序 (5) 急性炎症と慢性炎症の違い (6) 急性炎症疾患と慢性炎症疾患としての基本的症候 (7) 検査と治療					講義 演習		
7 8 9 10 11 12	5) パフォーマンス課題 テーマ「浮腫の病態と看護を説明する」 (1) 疾病・病態と症状・徴候の関係から症状の緩和を目指す ①症状：浮腫 ②疾患：心不全/血管透過性の亢進/ネフローゼ症候群 ③三つの疾患の浮腫について学習 (2) グループで一つの疾患についてテーマをまとめる (3) 発表会					講義 演習		
13	試験					試験		
評価規準 評価方法	演習・パフォーマンス課題・筆記試験 100点評価							
テキストおよび 参考文献	専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学(医学書院) 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学(医学書院) 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論(医学書院)							
履修上の注 意点								